

5 戦略

イノベーションマネジメント

Hondaのサステナビリティ …… 13

持続的な成長のために …… 14

2030年ビジョン …… 15

マテリアリティマトリックス …… 16

サステナビリティマネジメント体制 17

ステークホルダーエンゲージメント 18

研究開発 …… 20

▶ イノベーションマネジメント …… 21

新領域の研究開発を加速

Honda は、2030 年ビジョン (⇒ P.15) において世界中の一人ひとりの「移動」と「暮らし」を進化させることをめざしています。それには、「二輪」「四輪」「パワープロダクト」「航空」といった既存の事業領域に加え、新たな領域の研究開発が必要です。近年のAI やビッグデータなどデジタルテクノロジーの進化にともない、これまで以上に幅広いフィールドにおいて、新しい価値創造の可能性が拡大しています。これを好機と捉えて、さらなる新領域における研究開発に注力しています。

さらに、その実現を加速するため、外部企業との戦略的な連携を図るオープンイノベーションを、積極的に推進していきます。変化の激しい現代においてクローズドな環境での開発では、変化のスピードに後れをとってしまうことは否めません。スピード感を持って対応するために、オープンイノベーションを取り入れるとともに、「AI × Data × Honda の強み」を活用して、これまでの「モノづくり」に加え、人と協調する新たな価値を持った「モノ・コトづくり」への取り組みを進めています。

「R&D センター X」を開設

Honda は新たなチャレンジに向けて、これまでとは異なるアプローチで新価値領域を担う研究開発組織「R&D センター X (エックス)」を、2017 年 4 月に開設しました。

R&D センター X は、2050 年を起点に「2030 年のありたい姿」を見通す視点で、長期戦略を視野に入れた研究開発を行います。研究領域の一つである「ロボティクス」には、単なる「ロボット技術」だけでなく、「モビリティシステム」など自律的に動く機械やそのシステム、これらを動かすための「エネルギー管理」も含めた、「人の素晴らしさが際立つロボティクス社会」の実現をめざした研究開発を行っています。R&D センター X では研究開発のコンセプトに、「3E (Empower, Experience, Empathy)」を掲げています。

2017 年 2 月には、R&D センター X の開設に先駆け、東京都港区赤坂に、オープンイノベーションを推進するための新拠点「Honda イノベーションラボ Tokyo」を開設しました。外部企業との戦略的な連携を図る場として、すでに多数の問い合わせをいただいております。将来の成果につながることを期待されています。

3E コンセプト



T O P I C S

「CES※ 2018」で、Honda のめざすロボティクス社会を提案

Honda は、2018 年 1 月に開催された「CES 2018」に、前年に続いて参加しました。3E コンセプトをテーマに出展し、Honda のめざす「人の素晴らしさが際立つロボティクス社会」を提案しました。会場では、3E を表現したロボットのコンセプトモデルをプレゼンテーションし、来場者の注目を集めました。



人とふれあってコミュニケーションをとる「3E-A18」



ラストワンマイルの移動をサポートする「3E-B18」



自ら学びながら、物販や移動広告などを行う「3E-C18」



路面状況の悪い場所で人の仕事をサポートする「3E-D18」

※ CES :「Consumer Electronics Show」の略。米国で開催される、コンシューマ・エレクトロニクス分野における世界最大の見本市。

5 戦略

イノベーションマネジメント

Hondaのサステナビリティ	13
持続的な成長のために	14
2030年ビジョン	15
マテリアリティマトリックス	16
サステナビリティマネジメント体制	17
ステークホルダーエンゲージメント	18
研究開発	20

▶ イノベーションマネジメント … 21

「ホンダ R&D イノベーションズ」の役割

Hondaでは2015年から、グローバルで優れた技術の発掘を行い、イノベーターとのオープンイノベーションを促進するプログラムである「Honda Xcelerator」を実施しています。このプログラムでは革新的なアイデアを持つスタートアップ企業に対し、コラボレーションの場、テスト用車両、Hondaのメンターによるサポートなどを提供しています。開発の対象領域は、エネルギー、ヒューマン・マシン・インターフェース（HMI）、パーソナルモビリティ、自動運転、AI、先進素材、ロボティクスなどで、モビリティやエネルギーマネジメントの進化をめざしています。

このHonda Xceleratorの推進役となるのが、米国シリコンバレーの「ホンダ R&D イノベーションズ」です。もともと同地には、主にコンピューターサイエンスをテーマとする研究拠点「ホンダ・リサーチ・インスティテュート」を2000年に開設しており、2005年からコーポレートベンチャーキャピタルを開始していました。また2011年にはホンダ R&D アメリカズ・インコーポレーテッドの「ホンダシリコンバレーラボ」に組織変更し、先行してオープンイノベーションに取り組んできました。そして2017年4月、従来の四輪車を念頭に置いた開発から発展し、新価値領域の研究開発を、よりグローバルに展開するため、新会社として独立しました。ホンダ R&D イノベーションズは現在を起点とした新技術の発掘・開発の役割を担っています。

Honda R&D イノベーションズでは、すでにさまざまなスタートアップ企業に対してHonda Xceleratorによる機会提供を行い、シリコンバレーで培った研究テーマに対する選択眼を活かしながら、スピード感を持って研究開発を進めています。そして将来の実用化に向けて、国内外のほかの研究所に引き継ぎを行っています。Honda Xceleratorは、かつてはシリコンバレー、ボストン、イスラエルを中心に行ってききましたが、現在ではデトロイト、欧州、中国、および日本も含めた連携を深めています。

また、クルマをプラットフォームと捉えて、スマートフォンやタブレット用のアプリを利用したサービスを、オープンイノベーションによって開発する「Honda Developer Studio」も提供しています。外部企業と提携し、新たな情報サービスや決済システム、キャラクターやゲームを取り入れたカーエンターテインメントなどの開発を進めています。

さらに最先端技術が集まるシリコンバレーならではの情報発信として、最新の技術動向をまとめたニュースレターを、世界中のHondaの技術者・研究者あてに定期的に配信しています。またHondaの全メンバーを対象に参加希望者を募り、最新の技術トレンドや開発中の技術を紹介する「Demo Day」を年に2回程度開催し、技術者・研究者のニーズを発掘するとともに、オープンイノベーションの文化をHonda全体に広めています。

これからもHondaはオープンイノベーションを積極的に推進し、グローバルレベルで新価値領域における研究開発に取り組んでいきます。

Honda Xcelerator のグローバル展開

